

神西湖漁場環境現況調査（委託）

中村幹雄・松本洋典・山根恭道・安木 茂・向井哲也

建設省の依頼で神西湖水域の漁場環境現況調査を行なった。その結果は建設省に提出する同報告書に記載している。今回はこの調査方法についての概要と、魚類調査および漁業実態調査の項についての抄録とし、他の項目については前出の報告書を参照されたい。

調査と方法

1. 調査期間 1992年11月～1993年10月
2. 調査水域 調査水域は出雲市と簸川郡湖陵町にまたがる神西湖および同湖に流出・入する河川内である（図1）。

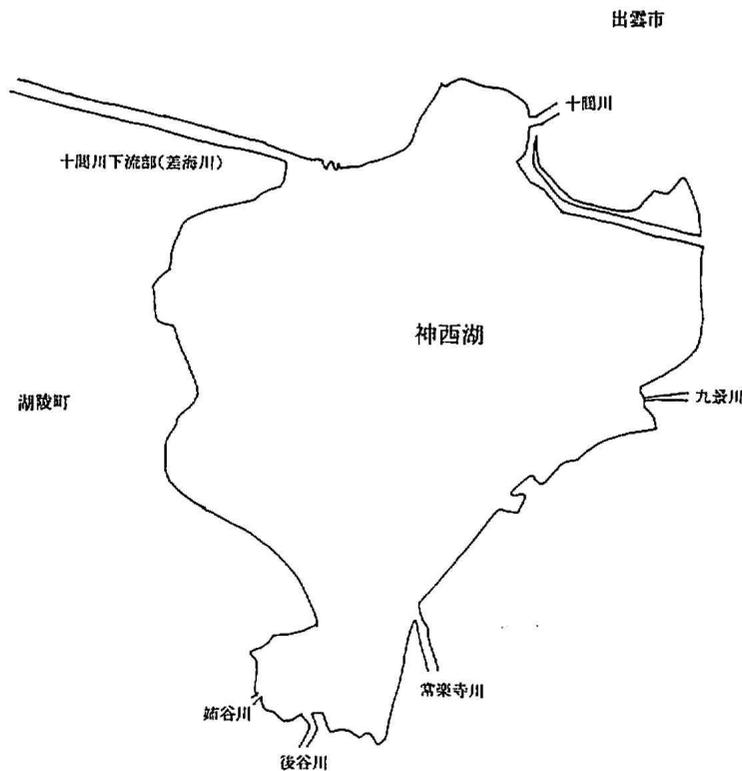


図1. 神西湖水域図

3. 調査方法

下記の8項目についてそれぞれの専門家からなるプロジェクトチームを編成し、それぞれが専門の分野について調査を担当し、報告書を作成する。なお、全体のとりまとめは島根県水産試験場三刀屋内水面分場が行った。

I. 地理・地史		徳岡隆夫（島根大学理学部教授）
II. 水質環境	(1)水の流れ	奥田節夫（岡山理科大学理学部教授）
	(2)水質	橋谷 博（島根大学理学部教授）
III. 底質環境	(1)湖底地形と底質	高安克己（島根大学汽水域研究センター教授）
	(2)底質の物理化学的特性	森 忠洋（島根大学農学部教授）
IV. プランクトン	(1)植物プランクトン	遠部 卓（広島大学生物生産学部教授）
	(2)動物プランクトン	秋山 優（島根大学名誉教授）
V. 水生植物		国井秀伸（島根大学汽水域研究センター助教授）
VI. 底生動物		中尾 繁（北海道大学水産学部教授）
VII. 魚 類		島根県水産試験場三刀屋内水面分場 坂本 巖（島根医科大学助教授）
VIII. 漁業実態		島根県水産試験場三刀屋内水面分場

以下にそれぞれの調査方法についての概略を記す。

I. 地理・地史

近世以降の神西湖の歴史を明らかにするために湖心部で柱状試料を採取し、物理化学分析の他珪藻および花粉分析を行い、神西湖の地形的変遷の主な要因と考えられる洪水による体積物を中心に、従来の資料も含めて神西湖の環境変遷について考察を行った。

II. 水質環境

(1)水の流れ（日本海との水の交流を中心に）

差海川を通じて日本海につながる神西湖の外海との水の交流について、河川流出や潮汐の組合せの状態のことなる四季にわたって、湖内と河川水路において定点観測を行い水の交流の定量的考察を行った。

(2)水質

月に1回湖心部において水温、塩分濃度、D O、濁度、S S、クロロフィル-aを測定し、四季を通じた水質の把握を行った。また、柱状コアの採取分析により水質に及ぼす底質の影響、さらに気象台のデータから気象の影響についても考察した。

III. 底質環境

(1)湖底地形と底質

湖内全域の湖底地形を底質探査機を用いて把握した。また底質の粒度組成、全有機炭素量、全窒素量また底生有孔虫の分布などから湖底地形、流入河川が底質に及ぼす影響を考察した。

(2)底質の物理化学的特性

神西湖における有用性物の環境として最も重要と考えられる底質の物理化学的特性を把握するために、底泥の含水比、強熱減量、酸化還元電位および粒度などについて観測・測定を行った。

IV. フラクトン

(1)植物プランクトン

神西湖における漁場環境の指標生物として、その藻類の検討を四季を通じて、同湖のプランクトン、および沿岸部の大形着生藻類について調査した。

(2)動物プランクトン

神西湖における動物プランクトンの水平分布と季節変動についての概要を把握し、神西湖の特性について検討した。

V. 水生植物

水環境や植物相の過去あるいは将来にわたる変化を知るための基礎資料となる水生植物相および水質の現況を、神西湖内および流入する河川について行った。

VI. 底生動物

底層環境の指標生物としてマクロベントスについての調査を四季を通じて行い、神西湖の底層環境の実態を把握した。

VII. 魚類

月に1回、湖内の柵網、差海川内の小袋網さらに沿岸部で行なった投網・手網などの小漁具による採集調査で漁獲された魚類をすべて持ち帰り、分類・同定を行って湖内に生息する魚類を把握した。また、漁業日誌記帳を漁業者に依頼し、その記録から魚類の外海と湖内の間での移動や生息密度など魚類の生態からみた神西湖の魚類相の季節変化を把握。この他にヤマトシジミの資源実態についても調査を行った。

VIII. 漁業実態

漁業センサスなどの既存の調査資料、神西湖漁業協同組合の事業報告書などの他、漁業者に対する独自のアンケート調査を行い、これらのデータをもとに同湖における漁業の実態を把握した。

4. 調査結果

－魚類調査－

(1)生息魚種の把握

湖内に設置された柵網からは、年間を通じて20科40種の魚類と4科7種の甲殻類が確認された(別表1)。このうち魚類について見ると、淡水魚が5科10種、回遊魚が4科5種で、残りの12科25種は海産魚であった。

差海川内に設置された小袋網からは、年間を通じて18科22種の魚類と3科5種の甲殻類が確認された(別表2)。なお、7、8月は大雨ならびに北海道南西沖地震の津波による網の破損があり欠測となった。

このうち魚類では回遊魚であるウナギを除き、残りのほとんどは海産種であった。

湖内沿岸部での投網などの小漁具による調査（6月23日、7月14日、10月28日）では、5科10種の魚類と3科3種の甲殻類が確認された（別表3）。魚類について見ると、アシシロハゼ、ゴクラクハゼなど小型の淡水産ハゼ類が比較的多く採集されているが、スズキ、ボラなどの海産種の稚魚も高密度で分布している。

この他、聞き取り・文献などによる調査を加えると、神西湖水域に生息する魚類は42科74種で、31科48種が海産魚(64.9%)、7科19種が淡水魚(25.7%)、6科7種が回遊魚(9.5%)という内訳になっている（別表4）。

(2) 魚類の生態からみた神西湖の魚類相の季節変化

この水域で柵網、小袋網の2種類の定置網漁業を行なっている漁業者に依頼し、年間を通じて漁業日誌を記帳してもらった。この結果から、年間を通じた1日当たり漁獲量は、柵網で41.76kg、小袋網で13.89kgであり、圧倒的に神西湖内の柵網の漁獲が多い（別表5、6）。また、神西湖内で最も生息量が多いのはマハゼで以下スズキ、フナ、クロダイ、コノシロ、モクズガニ、ボラ、エビ類、ウナギ、コイと続く（別表5）。差海川内ではマハゼ、モクズガニ、スズキ、サッパ、ボラ、ヒラメ、ドンコ、ウナギ、コノシロ、コチの順であった（別表6）。

神西湖内で魚類資源密度（1日当たり漁獲量）が最も高くなるのは1月で、海産魚がそのほとんどを占めている（図2）。なお、そのほとんどはマハゼで、この時期には産卵期を控えて湖内から差海川河口に

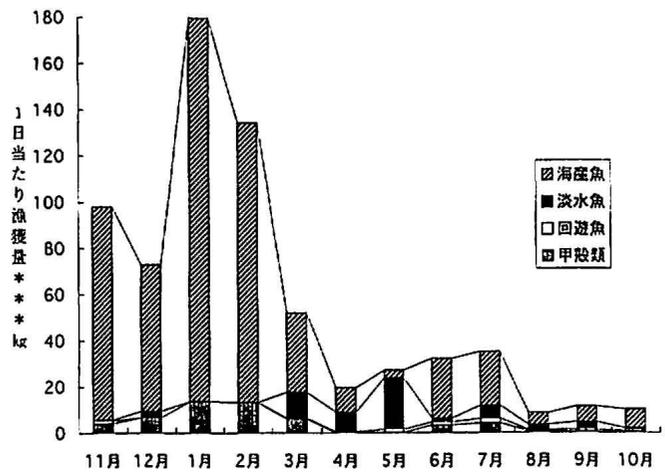


図2 神西湖内の魚類資源密度の季節推移

移動しつつある。マハゼの産卵期が終わる春には魚類資源密度は急激に低くなり淡水魚の割合が増加する。春から夏にかけて、ボラやスズキの湖内への侵入によって海産魚の割合が増えるとともに魚類資源密度が再び上昇し、7月にピークを迎える。8月に急激な落ちこみを見せるが、これは1993年の例年でない降雨量の影響のためであると思われる。秋から冬に向けてマハゼの漁獲が増えて魚類資源密度は再び上昇する。

－ 漁業実態調査 －

平成5年2月における組合員数は170名で、昭和52年以降2～3人の増減はあるものの安定した推移を示している（表1）。昭和40年代末から昭和50年代初頭にかけて組合員数の急激な増加がみられ、これはしじみ漁業および投網漁業を対象とした準組合員の大量参入に起因している。組合員からの聞き取りによれば、昭和40年代末から昭和50年代にかけてヤマトシジミの大量発生があり、これが契機となっていると考えられる。

表1 神西湖漁協組合員数の推移

年 度	正組合員数	準組合員数	組合員総数
昭和46年	79	--	79
47	80	--	80
48	81	--	81
49	84	--	84
50	83	12	95
51	82	27	109
52	?	?	?
53	?	?	?
54	81	92	173
55	81	91	172
56	81	90	171
57	81	90	171
58	81	89	170
59	81	90	171
60	81	91	172
61	81	92	173
62	81	92	173
63	81	90	171
平成元年	81	90	171
2	81	91	172
3	81	89	170
4	81	89	170

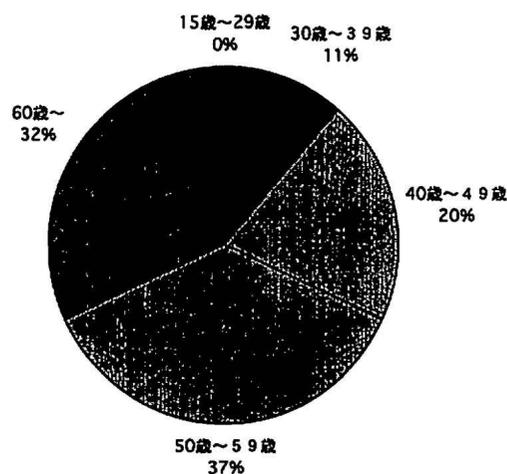


図3 神西湖漁協組合員の年齢構成

組合員の年齢構成(図3)は、平均年齢は57.4歳で、最年少が30歳、最高齢は85歳であった。また、経験年数では、平均年数が22年で最も漁業経験の長い組合員は60年であった。これから、高い年齢の割には経験の浅い組合員が多いと判断される。この原因として前述した昭和50年代初頭にあった組合員の大量参入が考えられる。

現在の専業漁家と兼業漁家の比率(図4)では81.18%が兼業漁家で占められ、専業漁家は18.82%である。

組合員の後継者については組合員170名中で後継者がいるとアンケートに答えた者は、56.5%にあたる96名で、多くの割合で後継者がおり、漁業の存続問題に関しては比較的良好的な状態にあると言える。これは、多くの組合員が準組合員を中心とする兼業漁家であることや、漁業の中心であるしじみ漁業にかかる設備投資はさほど大きくないことなどの理由により、漁業参入に対する不安が少ないということが考えられる。

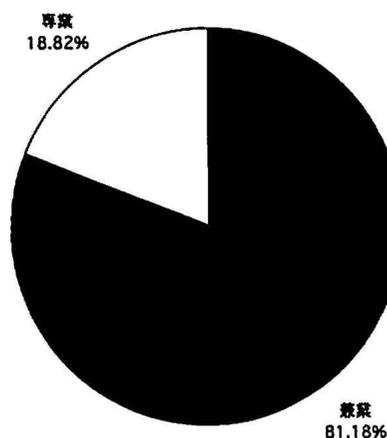


図4 神西湖漁協組合員の専業・兼業比率

漁獲量の年次推移(表2)から、昭和30年代～現在まで漁獲物は淡水産魚貝類から汽水あるいは海産の魚貝類へと長期的な変動がみられ、ことに昭和50年前後にはヤマトシジミ漁獲量の急激な増大に特に顕著である。また、組合員の急激な増加、さらに船舶の機械化なども昭和50年前後を契機としており、良好な後継者の存在もこれらの状況を反映しているものと考えられる。こうした経緯から判断して、現在の神西湖の漁業資源を支えているのは、その大量発生以来再生産を続けてきた豊富なヤマトシジミ資源であると言ってよい。ヤマトシジミ大量発生以来の総漁獲量の飛躍的な増大、また全組合員の80%弱もの漁業者が従事

している「しじみ漁業」への依存度を考える場合、商品価値が高いヤマトシジミを中心とした現状の漁業を維持し、さらに増大させていくことが最も望ましい方向であると判断される。

表2 神西湖における漁獲量の内訳と年次推移

	ワカギ	シラサキ	コイ	フナ	ウナギ	ボラ	ハゼ	ウグイ	シジミ	エビ	その他	合計
昭和28年	—	0.3	0.7	3.3	2.6	—	—	—	2.5	0.3	19.6	28.7
29	—	0.3	0.8	3.0	2.8	—	—	—	6.6	0.4	15.4	29.3
30	—	—	0.5	1.8	2.8	—	—	—	5.9	0.2	13.6	25.2
31	—	—	0.5	1.6	1.9	—	—	—	5.6	0.2	8.1	18.1
32	—	0.2	0.4	2.4	1.9	—	—	—	5.9	0.1	11.6	22.9
33	—	1.3	1.3	17.4	13.6	—	—	—	32.4	—	49.0	115.4
34	0.1	3.4	2.1	21.1	17.0	—	—	—	88.2	0.7	44.6	177.4
35	0.1	3.3	2.1	21.3	16.8	—	—	—	35.5	1.2	59.2	139.9
36	0.1	3.2	2.3	20.7	22.7	—	—	—	19.3	1.1	59.6	129.3
37	0.2	4.4	2.5	26.8	29.7	—	—	—	19.3	1.5	120.2	205.0
38	—	3.0	5.0	24.0	26.0	—	—	—	20.0	1.0	103.0	183.0
39	—	3.0	3.0	25.0	47.0	—	—	—	14.0	1.0	74.0	167.0
40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
41	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
43	—	—	3.0	20.0	12.0	83.0	1.0	1.0	27.0	1.0	13.0	161.0
44	—	—	2.0	1.0	7.0	—	—	—	17.0	—	32.0	59.0
45	—	—	2.0	11.0	7.0	—	—	—	17.0	—	34.0	71.0
46	—	1.0	8.0	15.0	6.0	—	—	—	11.0	4.0	61.0	107.0
47	—	1.0	9.0	18.0	6.0	—	—	—	24.0	5.0	60.0	123.0
48	—	—	9.0	17.0	6.0	—	—	—	17.0	2.0	72.0	123.0
49	—	—	9.0	16.0	4.0	—	—	—	16.0	1.0	83.0	128.0
50	—	—	10.0	8.0	4.0	—	—	—	21.0	1.0	146.0	190.0
51	—	—	8.0	4.0	5.0	—	—	—	105.0	1.0	169.0	292.0
52	—	—	8.0	4.0	6.0	—	—	—	158.0	1.0	171.0	348.0
53	—	—	7.0	3.0	4.0	—	—	—	181.0	1.0	186.0	382.0
54	—	—	5.0	7.0	4.0	—	—	—	180.0	2.0	189.0	387.0
55	—	—	5.0	6.0	5.0	—	—	—	150.0	1.0	140.0	307.0
56	—	—	5.0	6.0	4.0	—	—	—	145.0	1.0	169.0	330.0
57	—	—	5.0	7.0	5.0	—	—	—	140.0	1.0	169.0	327.0
58	—	—	5.0	7.0	5.0	148.0	7.0	—	154.0	1.0	20.0	347.0
59	—	—	4.0	6.0	3.0	150.0	7.0	—	140.0	1.0	19.0	330.0
60	—	—	5.0	3.0	3.0	150.0	7.0	—	152.0	2.0	18.0	340.0
61	—	—	5.0	9.0	3.0	—	—	—	140.0	2.0	12.0	171.0
62	—	1.0	4.0	10.0	5.0	8.0	—	—	204.0	4.0	14.0	250.0
63	—	1.0	4.0	8.0	5.0	10.0	—	—	360.0	3.0	17.0	408.0
平成元年	—	1.0	5.0	8.0	6.0	25.0	10.0	—	360.0	4.0	81.0	500.0
2	—	—	5.0	7.0	6.0	27.0	13.0	—	325.0	3.0	72.0	458.0
3	—	—	5.0	6.0	6.0	28.0	12.0	—	317.0	3.0	77.0	454.0

島根県農林水産統計年報より

注) 昭和40年～42年は記録がないため不明
また、ボラ、ハゼなどは他の魚種
に含まれる年もある

別表1 柵網による魚類調査

魚種	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1.ヘダイ		○										
2.クロダイ	○	○					○			○	○	○
3.シマイサキ	○						○	○	○		○	
4.クロアイ	○											
5.トラフグ	○	○					○		○			
6.クサフグ	○									○		○
7.マフグ	○											
8.コチ	○								○			
9.コノシロ	○	○										
10.サッパ		○				○	○			○		○
11.ヒイラギ	○											
12.マボラ	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
13.セスジボラ						○	○	○	○	○	○	○
14.メナダ											○	○
15.サヨリ												○
16.カクタイワシ	○											
17.スズキ	○		○				○	○	○	○	○	○
18.ヒラメ	○						○	○	○			
19.メイタカレイ							○	○				
20.ウナギ							○		○		○	○
21.ウグイ			○				○	○	○	○		
22.コイ								○				
23.ニゴイ			○									○
24.ギンブナ	○		○			○	○	○	○	○	○	○
25.タイクハチ							○	○				
26.ナマズ						○	○		○			
27.ギギ									○		○	
28.カムルチー							○		○			
29.オオクチバス									○			
30.シロサケ						○						
31.アユ										○	○	○
32.ヤマメ				○				○				
33.イトヨ				○		○						
34.マハゼ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35.シマハゼ									○	○	○	
36.ウロハゼ							○					
37.スミウキゴリ		○										
38.ドンコ	○											
39.チチブ							○	○	○			
40.ヨシノボリ								○				
41.モクズガニ	○			○	○	○	○		○		○	○
42.イワガニ	○											
43.イソガニ												
44.カサガニ					○		○		○			
45.クルマエビ	○	○						○				
46.ヨシエビ	○					○	○	○	○			
47.テナガエビ						○	○	○	○	○	○	○

別表2 小袋網による魚類調査

魚種	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
1.クロダイ	○				■		■		■	■		
2.シマイサキ					■	○	■		■	■		
3.クロソイ					■	○	■		■	■		
4.クサフグ					■		■		■	■	○	○
5.コチ					大		大		大	大		
6.マアジ					■		■		■	■	○	
7.コノシロ	○				■		■		■	■		
8.サッパ	○	○			■	○	■		■	■	○	○
9.ヒイラギ					■	○	■		■	■		
10.ボラ			○		■		■		■	■	○	
11.サヨリ	○				■		■		■	■		
12.ダツ					■		■	○	■	■		
13.スズキ					■		■	○	■	■	○	○
14.ヒラメ	○				■		■	○	■	■		
15.ハオコゼ		○			■		■		■	■		
16.オサマエビ					■		■	○	■	■		
17.ウナギ	○				■		■		■	■		
18.マハゼ	○	○	○	○	■		■	○	■	■	○	○
19.シマハゼ					■		■	○	■	■	○	
20.ウロハゼ	○				■		■		■	■		
21.チチブ	○				■		■		■	■		
22.カマキリ					■		■	○	■	■		
23.モクズガニ	○	○	○		■		■		■	■	○	○
24.イソガニ	○				測		測		測	測		
25.カサガイ	○				■		■		■	■	○	○
26.クルマエビ	○				■		■		■	■		
27.テナガエビ		○			■		■	○	■	■		

《欠測の事由》

3月は定期的な網の付替補修
 6月は出水のための網の破損によるもの
 7、8月は北海道南部沖地震の津波による破損のため、また大雨によるもの

別表3 投網・手網・すくい網による魚類調査

魚種	6月23日	7月14日	10月28日
1.クロダイ	○	○	
2.シマイサキ		○	
3.マボラ	○	○	
4.セスジボラ	○	○	
5.スズキ	○	○	
6.ヒラスズキ	○	○	
7.ギンブナ	○		
8.ウグイ		○	
9.シラウオ	○		
10.マハゼ	○	○	○
11.アシシロハゼ	○	○	○
12.ゴクラクハゼ	○	○	○
13.ドンコ	○		
14.チチブ		○	○
15.ヨシノボリ		○	○
16.スミウキゴリ	○		○
17.カマキリ	○	○	
18.メダカ	○	○	
19.モクズガニ		○	
20.ヨシエビ		○	○
21.テナガエビ		○	○

日付	人員	漁具・漁法(数量)	採集時間	採集区域
6/23	6名	投網2 手網3 すくい網1	13:30-15:30	湖内沿岸全域
7/14	5名	投網2 手網2 すくい網1	10:30-15:30	湖内沿岸全域
10/28	6名	投網2 手網3 すくい網1	10:30-16:00	十間川湖内流入口

※投網, 手網とも目合5mm

小型すくい網は目合2mm

別表4 神西湖水域に生息する魚類一覧

科名	種名	学名
1. ウミヘビ科	1. スソウミヘビ	<i>Ophichthus urolophus</i>
	2. ホタテウミヘビ	<i>Pisodonophis zophistius</i>
2. アナゴ科	3. ハモ	<i>Muraenesox cinereus</i>
3. ニシン科	4. コノシロ	<i>Konosirus punctatus</i>
	5. サツパ	<i>Sardinella zunasi</i>
4. カタクチイワシ科	6. カタクチイワシ	<i>Engraulis japonicus</i>
5. コイ科	7. コイ	<i>Cyprinus carpio</i>
	8. ウグイ	<i>Tribolodon hakonensis</i>
	9. オイカワ	<i>Zacco platypus</i>
	10. カワムツ	<i>Zacco temminckii</i>
	11. ギンブナ	<i>Garassius auratus langsdorfii</i>
	12. ガンゴロウブナ	<i>Garassius auratus cuvieri</i>
	13. ニゴイ	<i>Hemibarbus barbus</i>
	14. タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>
6. ドジョウ科	15. シマドジョウ	<i>Cobitis biwae</i>
7. ナマズ科	16. ナマズ	<i>Silurus asotus</i>
	17. ハゲギギ	<i>Pelteobagrus nudiceps</i>
8. キュウリウオ科	18. ワカサギ	<i>Hypomesus t. nipponensis</i>
9. アユ科	19. アユ	<i>Plecoglossus olivellii</i>
10. シラウオ科	20. シラウオ	<i>Salangichthys microdon</i>
11. サケ科	21. サクラマス	<i>Oncorhynchus masou masou</i>
	22. シロサケ	<i>Oncorhynchus keta</i>
12. サヨリ科	23. クルメサヨリ	<i>Hyporhamphas intermedius</i>
	24. サヨリ	<i>Hyporhamphas sajori</i>
13. ダツ科	25. ダツ	<i>Strogylura anastomella</i>
14. メダカ科	26. メダカ	<i>Oryzias latipes</i>
15. トウゴロイワシ科	27. トウゴロイワシ	<i>Hypoatherina bleekeri</i>
16. トゲウオ科	28. イトヨ	<i>Gosterosteus aculeatus</i>
17. フサカサゴ科	29. クロソイ	<i>Sebastes oblongus</i>
18. ハオコゼ科	30. ハオコゼ	<i>Hypodytes rubripinnis</i>
19. コチ科	31. コチ	<i>Platycephalus indicus</i>
20. カジカ科	32. カマキリ	<i>Cottus kazika</i>
21. スズキ科	33. スズキ	<i>Lateolabrax japonicus</i>
	34. ヒラスズキ	<i>Lateolabrax latus</i>
22. シマイサキ科	35. シマイサキ	<i>Rhyncopelates oxyrhynchus</i>
23. サンフィッシュ科	36. オオクチバス	<i>Micropeterus salmoides</i>

別表4 (つづき)

24. キ ス科	37. シ ロ キ ス	<i>Sillago japonica</i>
25. ア ジ科	38. マ ア ジ	<i>Trachurus japonicus</i>
26. ヒイラギ科	39. ヒ イ ラ ギ	<i>Leiognathus nacharis</i>
27. イサキ科	40. コ シ ョ ウ タ イ	<i>Plectorhynchus niger</i>
28. タ イ科	41. ク ロ ダ イ	<i>Acanthopagrus schlegeli</i>
	42. ヘ ダ イ	<i>Sparus sarba</i>
29. イスズミ科	43. メ ジ ナ	<i>Girella punctata</i>
30. キンチャクダイ科	44. キンチャクダイ	<i>Chaetodontophlus septentrionalis</i>
31. イシダイ科	45. イ シ ダ イ	<i>Oplegnathus fasciatus</i>
32. ボ ラ科	46. ボ ラ	<i>Mugil cephalus cephalus</i>
	47. セ ス ジ ボ ラ	<i>Liza affinis</i>
	48. メ ナ ダ	<i>Liza haematocheila</i>
33. カ マ ス科	49. ア カ カ マ ス	<i>Sphyaena pinguis</i>
34. ニシキギンボ科	50. ギ ン ボ	<i>Pholis nebulosa</i>
35. ハ ゼ科	51. ド ン コ	<i>Odontobutis obscura obscura</i>
	52. チ チ ブ	<i>Tridentiger obscurus</i>
	53. ヌ マ チ チ ブ	<i>Tridentiger brevispinis</i>
	54. シ マ ハ ゼ	<i>Tridentiger trigonocephalus</i>
	55. ヨ シ ノ ボ リ	<i>Rhinogobius brunneus</i>
	56. コ ク ラ ク ハ ゼ	<i>Rhinogobius giurinus</i>
	57. ア シ シ ロ ハ ゼ	<i>Acanthogobius lactipes</i>
	58. マ ハ ゼ	<i>Acanthogobius flavimanus</i>
	59. ウ ロ ハ ゼ	<i>Glossogobius olivaceus</i>
	60. ビ リ ン ゴ	<i>Chaenogobius laevis</i>
	61. ニ ク ハ ゼ	<i>Chaenogobius heptacanthus</i>
	62. ス ミ ウ キ ゴ リ	<i>Chaenogobius sp2.</i>
	63. シ ロ ウ オ	<i>Leucopsarion petersi</i>
36. アイゴ科	64. ア イ ゴ	<i>Siganus fuscescens</i>
37. タイワンドジョウ科	65. カ ム ル チ ー	<i>Channa argus</i>
38. ヒラメ科	66. ヒ ラ メ	<i>Paralichthys olivaceus</i>
39. カレイ科	67. メ イ タ ガ レ イ	<i>Pleuronectes bilineatus</i>
	68. マ コ ガ レ イ	<i>Limanda yokohamae</i>
	69. イ シ ガ レ イ	<i>Kareinus bicoloratus</i>
40. カワハギ科	70. カ ワ ハ ギ	<i>Stephanolepis cirrhifer</i>
41. フ グ科	71. ク サ フ グ	<i>Takifugu niphobles</i>
	72. ト ラ フ グ	<i>Takifugu rubripes</i>
	73. マ フ グ	<i>Takifugu porphyreus</i>
42. ウナギ科	74. ウ ナ ギ	<i>Anguilla japonica</i>

別表6 柵網年間1日当り漁獲量魚種別内訳

順位	魚 種	1日当り漁獲量(年間)	(%)
1	ハゼ	19.296	46.21
2	スズキ	6.475	15.51
3	フナ	3.855	9.23
4	クロダイ	3.637	8.71
5	コノシロ	2.179	5.22
6	モクズガニ	1.897	4.54
7	ボラ	1.194	2.86
8	エビ類	1.077	2.58
9	ウナギ	1.004	2.40
10	コイ	0.380	0.91
	その他(10位以下計)	0.761	1.82
	合 計	41.755	